凱歌を揚げた女給連
馘られた二名は復職し
「女給だつて労働者です」と婦人労働運動の片鱗を覗かす

の應援の下に生れた西大阪の女給聯盟がその後着々計画の歩を進め而も最初の労資争議の一として西區西九條小堀勝三氏経営の朝日食堂で女給倉本あい子外一名は既報の如く突然に解雇されたがこの最初の争議に當るべく同聯盟は二十三日前記朝日食堂主小堀氏との交渉を開始し其結果解雇された二名は漸く要求が容れられて復職することになつたのみならず更に八時間労働制、チップ全廃、月給制度まで持出した處小堀氏も歓迎の女給制を廃止した上で一八時間制チップ全廃及び月給制(最低八十圓)を採用することまで承認することになり第一回の同食堂争議は女給側の勝ちに歸した

一方同聯盟へは加盟の申込も追々増し約百五十名に達して居り四月十日別近事務所で發會式を擧げ組合長に推された賀川豊彦氏夫妻、小見山富恵氏、山名義鶴氏等が顔を出して大いに気勢を揚げコレ等……居連をも糾合する計画を樹てゝある

八ヶ月振りで牢獄の外に
卅一名の保釈出獄者が
家族の涙同志の万歳に
迎へられ太陽の輝きを振仰いで
川崎争議犠牲者

保釈金

既記の

黒山を

歓喜の勇

惨敗記念の歌を高唱し

抱き合つて泣いた
野倉氏等出獄者を迎へた一團は稲田に集合賀川氏等の挨拶
時ならぬ劇的シーンを作る

母に負

音頭を

牢獄に

泣き聲

涙を拭

自由は

斯くして

万感交々
野倉氏

居め裁判所附近の様子の変つたのに驚き眼を瞠り乍ら語る『出獄したばかりで万感胸に迫り興奮してゐますから多くを云へませんが、あの當時私は

危険が 身辺に迫つてゐると噂せられ自身にもそれを感じてゐたのですから却て収監せられた事が自分を救ふ道であつたかも知れません……調書も私共の入監してから出来たもので當時の私等の心持とは大分かけ離れたもので反駁する材料も沢山ありますがしかし今はそれを云ふ時ではありますまいこんなに早く

出獄が 出来ようと思ひませんでしたが賀川豊彦氏始め諸君の御盡力に依つて斯く早く出られたのは感謝に堪へぬ處である……